

〔原著〕

1. Nakamura, Y., Tagawa, K., Oka, T., Sasabe, T., Ito, H., Shiwaku, H., La Spada, A.R. and Okazawa, H. (2012). Ataxin-7 associates with microtubules and stabilizes the cytoskeletal network. *Hum Mol Genet.* 21 (5): 1099-1110. doi: 10.1093/hmg/ddr539
2. Ress, M., Gorba, C., Gorba, C., de Chiara, C., Bui, T.T.T., Garcia-Maya, M., Drake, A.F., Okazawa, H., Pastre, A., Svergun, D. and Chen, Y.W. (2012). The solution model of the intrinsically disordered polyglutamine tract binding protein-1 (PQBP-1). *Biophys J.* 102:1608–1616. doi: 10.1016/j.bpj.2012.02.047
3. Tamura T., Sone M., Nakamura Y., Shimamura T., Imoto S., Miyano S. and Okazawa H. (2012). A restricted level of PQBP1 is needed for the best longevity of Drosophila. *Neurobiology of Aging* . 2013 Jan;34(1):356.e11-20. doi: 10.1016/j.neurobiolaging.2012.07.015
4. Fujita K, Nakamura Y, Oka T, Ito H, Tamura T, Tagawa K, Sasabe T, Katsuta A, Motoki K, Shiwaku H, Sone M, Yoshida C, Katsuno M, Eishi Y, Murata M, Taylor JP, Wanker EE, Kono K, Tashiro S, Sobue G, La Spada AR, and Okazawa H (2013) A functional deficiency of TERA/VCP/p97 contributes to impaired DNA damage repair in multiple polyglutamine diseases. *Nature Commun. In press.*

〔著書・総説〕

1. 伊藤日加瑠、岡澤均、「ポリグルタミン蛋白質と神経変性疾患」,生体の科学, 2012, 64, 339-344
2. 岡澤均、「脳疾患のバイオマーカーとオプトジェネティクス」企画, 実験医学, 2012, vol.30, No.16
3. 岡澤均、「概論：技術革新による神経科学の新潮流」, 実験医学, 2012, vol.30, No.16, 2548-2553.
4. 田川一彦、岡澤均、「ハンチントン病のバイオマーカー研究」, 実験医学, 2012, vol.30, No.16, 2572-2576.

〔国際学会〕

1. Okazawa, H., Pathomechanisms of PQBP1 in neurons and neural stem cells causing learning defect and microcephaly The 2nd Japan-Korea Neural Tissue culture seminar, Tokyo Medical and Dental University, M&D Tower, Akio Suzuki Memorial Hall, 2012.6.16 (口演)
2. Ito, H., Kurosu K., Okazawa, H., HMGB1 as a therapeutic molecule candidate for spinocerebellar ataxia type1. The 2nd Japan-Korea Neural Tissue culture seminar, Tokyo Medical and Dental University, M&D Tower, Akio Suzuki Memorial Hall, 2012.6.16 (口演)
3. Okazawa, H., Pathomechanisms of Intellectual Disabilities linked to a new RNA splicing protein, PQBP1, Tokyo Medical and Dental University International Summer Program 2012, Tokyo Medical and Dental University, M&D Tower, Akio Suzuki Memorial Hall, 2012.8.27-29 (口演)
4. Okazawa, H., Pathomechanisms of Intellectual Disability (ID) linked to a new RNA splicing protein, PQBP1” Cell Symposia Functional RNAs, Hotel Melia, Sitges, Spain 2012.12.2-4 (ポスター)

〔国内学会〕

1. 田村 拓也、曾根 雅紀、岩坪 威、田川 一彦、Erich Wanker、岡澤 均 「DNA 修復タンパク質・Ku70 はハンチントン病の神経変性を抑制する」 第 53 回日本神経学会学術大会 東京国際フォーラム 東京 2012.5.25 (ポスター)
2. 田村 拓也、「SCA1 病態における DNA 損傷修復異常」第五回分子高次機能研究会 KKR ホテルび

わこ 滋賀 2012.8.27-29

3. Sam S. Barclay、田村 拓也、伊藤 日加瑠、島村 徹平、勝田 明寿香、曾根 雅紀、塩飽 裕紀、田川 一彦、井元 清哉、宮野 悟、岡澤 均「脊髄小脳変性症 1 型における DNA 損傷修復遺伝子の効果：in vivo スクリーニング」第 35 回日本神経科学大会 名古屋国際会議場 名古屋 2012.9.18-21 (ポスター)
- 4 田村拓也、中村蓉子、塩飽裕紀、岡澤均、「PQBP1 遺伝子発現量と症状の相関関係」第 31 回日本認知症学会学術集会 つくば国際会議場 筑波 2012.10.26-28
- 5 伊藤 日加瑠、黒巢佳祐、岡澤 均、「脊髄小脳変性症 1 型(SCA1)の治療候補分子 HMGB1」第 35 回日本分子生物学会年会 福岡国際会議場マリネッセ福岡 福岡 2012.12.11-14
5. 田村 拓也、曾根 雅紀、中村 蓉子、島村 徹平、井元 清哉、宮野 悟、岡澤 均「発現量依存的に寿命をコントロールする遺伝子、PQBP1」第 35 回分子生物学会年会 福岡国際会議場マリネッセ福岡 福岡 2012.12.11-14
6. 田村 拓也、曾根 雅紀、中村 蓉子、島村 徹平、井元 清哉、宮野 悟、岡澤 均「発現量依存的に寿命をコントロールする遺伝子、PQBP1」第 85 回日本生化学会大会 福岡国際会議場マリネッセ福岡 福岡 2012.12.14-16
7. 伊藤 日加瑠、岡澤 均、「HMGB1 を用いた脊髄小脳変性症 1 型モデルマウスの治療」運動失調症の病態解明と治療法開発に関する研究班 平成 24 年度班会議 都市センターホテル 東京 2013.1.9-10
8. 伊藤 日加瑠、田川 一彦、岡澤 均、「HMGB1 を用いた脊髄小脳変性症 1 型モデルマウス治療の試み」第 5 回 東京医科歯科大学 CBIR 若手インスパイアシンポジウム 東京医科歯科大学 東京 2013.2.23
9. Chan Li, Hikaru Ito, Kyota Fujita, Hiroki Shiwaku, Yunglong Qi, Kazuhiko Tagawa, Takuya Tamura, Hitoshi Okazawa “Sox2 transcriptionally regulates Pqbp1, an intellectual disability-microcephaly causative gene, in neural stem progenitor cells” 第 5 回 東京医科歯科大学 CBIR 若手インスパイアシンポジウム 東京医科歯科大学 東京 2013.2.23
10. 田村 拓也、Sam Barclay、藤田 慶大、伊藤 日加瑠、本木 和美、島村 徹平、勝田 明寿香、塩飽 裕紀、曾根 雅紀、田川 一彦、井元 清哉、宮野 悟、岡澤 均、「脊髄小脳変性症 1 型における DNA 損傷修復遺伝子の効果；in vivo screening による解析」第 5 回 東京医科歯科大学 CBIR 若手インスパイアシンポジウム 東京医科歯科大学 東京 2013.2.23
11. 伊藤日加瑠 第 5 回 CBIR 若手インスパイアシンポジウム 「HMGB1 を用いた脊髄小脳変性症 1 型モデルマウス治療の試み」 2013.2
12. 伊藤日加瑠 平成 24 年度難治疾患研究所発表会 「HMGB1 を用いた脊髄小脳変性症 1 型モデルマウス治療の試み」 2013.3.8
13. 田村拓也 平成 24 年度難治疾患研究所発表会 「小脳脊髄変性症 1 型病態における DNA 損傷修復の関与」 2013.3.8
14. 李滢 平成 24 年度難治疾患研究所発表会 「Sox2 transcriptionally regulates Pqbp1, an intellectual disability-microcephaly causative gene, in neural stem progenitor cells」 2013.3.8
15. 岡澤 均 第 5 4 回日本神経病理学会総会学術研究会 シンポジウム・ブレインバンク「神経疾患タンパク質研究とブレインバンク」 タワーホール船堀、2013.4.24-26 (発表日 4/26)
16. 伊藤 日加瑠、田川 一彦、岡澤 均 第 5 4 回日本神経病理学会総会学術研究会 「HMGB1 を用いた脊髄小脳失調症 1 型モデルマウス治療の試み」(口演)、タワーホール船堀、2013.4.24-26 (発表日 4/26)
17. 伊藤 日加瑠、田川 一彦、岡澤 均 第 5 4 回日本神経学会学術大会「HMGB1 を用いた脊髄小脳変性症 1 型モデルマウス治療への試み」 (口演)、東京国際フォーラム、2013.5.29-6.1 (発表日

5/30)

18. 田村 拓也、Barclay S Sam、藤田 慶太、伊藤 日加瑠、本木 和美、島村 徹平、田川 一彦、勝田 明寿香、曾根 雅紀、井元 清哉、宮野 悟、岡澤 均 第54回日本神経学会学術大会「脊髄小脳変性症1型におけるDNA損傷修復遺伝子の効果:in vivo screeningによる解析」(ポスター)、東京国際フォーラム、2013.5.29-6.1(発表日 5/30)
19. Hikaru Ito, Kazuhiko Tagawa, Hitoshi Okazawa Neuro2013 “HMGB1 as a therapeutic molecule candidate for spinocerebellar ataxia type1 (SCA1).” (口演)、国立京都国際会館、2013.6.20-23(発表日 6/21)
20. Takuya Tamura, Barclay S Sam, Kyota Fujita, Hikaru Ito, Kazumi Motoki, Teppei Shimamura, Kazuhiko Tagawa, Asuka Katsuta, Masaki Sone, Seiya Imoto, Satoru Miyano, Hitoshi Okazawa Neuro2013 “causative pathway underlying in spinocerebellar ataxia type 1” (ポスター)、国立京都国際会館、2013.6.20-23(発表日 6/20)

〔招待講演・セミナー〕

1. 岡澤 均 「新学術領域研究「脳内環境」班会議」 KKR ホテル熱海 静岡 2012.1.28-29
2. 岡澤 均 「ポリグルタミン病の分子標的治療を目指して」 大阪大学蛋白質研究所セミナー「神経疾患の克服に向けて」 大阪大学蛋白質研究所 大阪 2012.3.1-2
3. 岡澤 均 「網羅的リン酸化タンパク解析による変性病態シグナル解明に向けて」 パソングナリングバイオロジー ワークショップ 東京医科歯科大学 東京 2012.4.24
4. 岡澤 均 「ポリグルタミン病の分子標的治療の開発に向けて」 パソングナリングバイオロジー ワークショップ 東京医科歯科大学 東京 2012.4.24
5. 岡澤 均 「変性と発達障害をつなぐ分子 PQBP1 の病態機能」 都医学研セミナー 東京都医学総合研究所 講堂 東京 2012.5.14
6. 岡澤 均 「ハンチントン病の分子病態解明」 第53回日本神経学会学術大会 2011 年度梅林賞受賞者招待講演 東京国際フォーラム 東京 2012.5.23
7. 岡澤 均 「ハンチントン病における DNA の損傷と修復」 日本放射線影響学会第55回大会 東北大学川内北キャンパス 仙台 2012.9.6-8
8. 岡澤 均 「New Common Pathologies of Neurodegenerative Diseases」 第35回日本神経科学大会 名古屋国際会議場 名古屋 2012.9.18-21
9. 岡澤 均 「脳の老化と変性におけるDNA損傷修復」 第34回日本生物学的精神医学会 神戸国際会議場 神戸 2012.9.28-30
10. 岡澤 均 :『神経変性疾患の分子標的治療を目指して』 横浜市立大学大学院生命医科学研究科 大学院講義 横浜市大鶴見キャンパス、2013.5.20

〔研究助成金〕

- 平成 23-25 年度 厚生労働省科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 「運動失調症の病態解明と治療法開発に関する研究」 課題番号：H23-難治一般-014 分担研究者 岡澤 均
- 平成 21-25 年度 科学技術振興機構戦略的創造研究推進事業 研究領域：精神・神経疾患の分子病態理解に基づく診断・治療へ向けた新技術の創出 「ポリグルタミン病の包括的治療法の開発」 共同研究者 岡澤 均
- 平成 22-26 年度 文部科学省科学研究費補助金 新学術領域研究 「シナプス・ニューロサーキットパソロジーの創成」 課題番号：22110001 研究代表者 岡澤 均
- 平成 22-26 年度 文部科学省科学研究費補助金 新学術領域研究 「発達障害・変性疾患のシナプス

ダイナミックパソロジーの解明」 課題番号：22110002 研究代表者 岡澤 均
平成 22-26 年度 文部科学省「脳科学研究戦略推進プログラム」『心身の健康を維持する脳の分子基盤と環境因子（生涯健康脳）』（課題E） 研究課題名：「脳の正常老化と異常老化を分岐する環境由来の脳リン酸化シグナルの解明」 研究代表者 岡澤 均
平成 23-25 年度 日本学術振興会科学研究費補助金 若手研究 B 「新規病態関連分子をターゲットとしたポリグルタミン病の治療効果」 課題番号：23700373 研究代表者 伊藤日加瑠
平成 23-25 年度 日本学術振興会科学研究費補助金 基盤 C 「アストロサイト系譜細胞の代謝異常によって生じる神経病態メカニズムの解析」 課題版号：23500438 研究代表者 榎戸 靖
平成 24-26 年度 日本学術振興会科学研究費補助金 基盤 C 「脊髄小脳失調症 I 型における複合体タンパク質プロテオーム解析による分子病態の解明」 課題版号：24500378 研究代表者 田川一彦
平成 23-25 年度 厚生労働省科学研究費補助金 難治性疾患克服研究事業 「運動失調症の病態解明と治療法開発に関する研究」 課題番号：H23-難治-一般-014 分担研究者 岡澤 均
平成 21-25 年度 科学技術振興機構戦略的創造研究推進事業 研究領域：精神・神経疾患の分子病態理解に基づく診断・治療へ向けた新技術の創出 「ポリグルタミン病の包括的治療法の開発」 共同研究者 岡澤 均
平成 22-26 年度 文部科学省科学研究費補助金 新学術領域研究 「シナプス・ニューロサーキットパソロジーの創成」 課題番号：22110001 研究代表者 岡澤 均
平成 22-26 年度 文部科学省科学研究費補助金 新学術領域研究 「発達障害・変性疾患のシナプスダイナミックパソロジーの解明」 課題番号：22110002 研究代表者 岡澤 均
平成 22-26 年度 文部科学省「脳科学研究戦略推進プログラム」『心身の健康を維持する脳の分子基盤と環境因子（生涯健康脳）』（課題E） 研究課題名：「脳の正常老化と異常老化を分岐する環境由来の脳リン酸化シグナルの解明」 研究代表者 岡澤 均
平成 23-25 年度 日本学術振興会科学研究費補助金 若手研究 B 「新規病態関連分子をターゲットとしたポリグルタミン病の治療効果」 課題番号：23700373 研究代表者 伊藤日加瑠
平成 23-25 年度 日本学術振興会科学研究費補助金 基盤 C 「アストロサイト系譜細胞の代謝異常によって生じる神経病態メカニズムの解析」 課題版号：23500438 研究代表者 榎戸 靖
平成 24-26 年度 日本学術振興会科学研究費補助金 基盤 C 「脊髄小脳失調症 I 型における複合体タンパク質プロテオーム解析による分子病態の解明」 課題版号：24500378 研究代表者 田川一彦

特許出願・取得状況

特許査定 2012 年 3 月 27 日

発明の名称：ポリグルタミン病の予防・治療剤

登録番号：特許第 4982739 号

登録日：2012 年 5 月 11 日

出願番号：特願 2006-154059

出願日：2006 年 6 月 1 日

特許権者：国立大学法人東京医科歯科大学

発明者：岡澤 均

本学整理番号：P05-047

発明の名称：精神発達遅滞の非ヒトモデル動物及び精神発達遅滞の症状を改善する活性を有する物質をスクリーニングする方法

登録番号：特許第 5066710 号

登録日：2012 年 8 月 24 日

出願番号：特願 2007-014795
出願日：2007 年 1 月 25 日
特許権者：国立大学法人東京医科歯科大学
発明者：岡澤 均
本学整理番号：P06-069

発明の名称：新規タンパク質及びそれを利用したポリグルタミン病等の
神経変性疾患の予防・治療薬

出願番号：特願 2006-545101
出願日：2005/11/16
登録番号：特許第 5103615 号
登録日：2012/10/12
出願人：国立大学法人東京医科歯科大学
発明者：岡澤 均
本学整理番号：P04-009P-JP

雑誌編集

実験医学 2012 年 10 月号 脳疾患のバイオマーカーとオプトジェネティクス

受賞

1. 伊藤日加瑠 第 5 回 CBIR 若手インスパイアシンポジウム 優秀賞、「HMGB1 を用いた脊髄小脳変性症 1 型モデルマウス治療の試み」 2013.2
2. 伊藤日加瑠 平成 24 年度難治疾患研究所発表会 優秀賞（第 1 位）、「HMGB1 を用いた脊髄小脳変性症 1 型モデルマウス治療の試み」 2013.3.8
3. 田村拓也 平成 24 年度難治疾患研究所発表会 優秀賞（第 1 位）、「小脳脊髄変性症 1 型病態における DNA 損傷修復の関与」 2013.3.8
4. 李滢 平成 24 年度難治疾患研究所発表会 萌芽賞、「Sox2 transcriptionally regulates Pqbp1, an intellectual disability-microcephaly causative gene, in neural stem progenitor cells」 2013.3.8

学会主催など

5. Okazawa, H., International Symposium "Fragile X, Autism and Intellectual Disabilities", Tokyo Medical and Dental University, M&D Tower, Akio Suzuki Memorial Hall, 2012.2.10
6. 岡澤 均 「高齢期を豊かに生きる脳の老化と認知症の克服」第 53 回日本神経学会学術大会市民公開講座(座長) 東京医科歯科大学 東京 2012.5.26
7. Okazawa, H., The 2nd Japan-Korea Neural Tissue culture seminar, Tokyo Medical and Dental University, M&D Tower, Akio Suzuki Memorial Hall, 2012.6.16
8. 岡澤 均 新学術領域「シナプス・ニューロサーキットパソロジーの創成」夏の班会議 包括型脳科学研究推進支援ネットワーク 夏のワークショップ 仙台国際センター 仙台 2011.7.24
9. 岡澤 均 シナプス病態若手シンポジウム 「脳疾患関連 3 領域合同シンポジウム」 包括型脳科学研究推進支援ネットワーク 夏のワークショップ 仙台国際センター 仙台 2011.7.25

10. 岡澤 均 新学術研究領域「シナプス・ニューロサーキットパソロジーの創成」 冬の班会議 KKR
ホテル鎌倉わかみや 鎌倉 2011.12.15-16
11. Okazawa, H., Synapse Pathology, International Synapse Research Workshop 2012, Okazaki
Conference Center, Okazaki, 2012.11.8-9 (座長)

〔その他〕

2013.4～ 伊藤日加瑠 (元特任助教) ワシントン州立大学 ポスドクに赴任